

こども教育会議 会議録(速記メモ)

日時	場所	出席	小松市長、松尾教育長、大庭教育長職務代理者、教育委員(馬場、山口、牟田、松尾、大渡、井手、野田)、古賀こども教育部長、諸岡こども教育部理事、教育総務課(木村課長)、こども未来課(古田課長、徳永参事)、学校教育課(小川課長)、新しい学校づくり課(石橋課長)、生涯学習課(朝長課長)、文化課(宮原課長)、スポーツ課(井手課長)、市民協働課(野口課長)、こども家庭課(田寄課長)、庭木企画部長、企画政策課(小柳課長、力安係長、西村)
令和5年8月18日(金) 9:30~10:15	武雄市役所 4階会議室		
1. 協議件名	第34回こども教育会議(第3期教育大綱の策定について)		

議事録

内容	<p>1 開会(進行:庭木企画部長)</p> <p>2 議事(議事進行:小松市長)</p> <p>(1)第3期教育大綱の策定について</p> <p>①話題提供</p> <p>企画政策課から、前回の会議でいただいたご意見をふまえた第3期教育大綱の素案を示した後、本日協議すべき内容等について説明を行った。</p> <p>②意見交換</p> <p><出席者の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・指針①について、「企業や地域が連携し」の部分に、「学校」も加えてほしい。学校が地域に溶け込み、これまでに以上に地域学習を大切にすべきと思ったため。また、地域が花まる学習会や登下校の見守りに参加することで、学校や子どもたちをより身近に感じられ、地域のつながりも増えると思う。指針を実現させるために、行政からは説明、具体的な方策の提示など機運醸成をお願いしたい。 ・以前示された具体的な施策が4年間でどう実施されるのかが重要。 ・指針①について、「企業」よりも「地域」を冒頭にしたいほうがいい。 ・3つの指針はそれぞれが連携して行っていけば、より一層効果がある。 ・基本理念「もっと、こどもまんなか」は、改めてシンプルに伝わりやすいと感じた。こども家庭庁が提言する「こどもまんなか社会の実現」とも重なり、相応しい。 ・教育大綱の名称『Move Forward 未来はわたしたちが創る』は、今までの『組む』からイメージを一新する言葉であるが、「move forward」と聞くと“先へ進める”という意味が強く感じる。「未来はわたしたちが創る」を単純に英語表記すると“we make the future”になる。英語表記にすると、今までの『組む』より言葉に込めた意味合いが感じ取りにくい。ただ、「move forward」という言葉自体は勢いがある言葉だと思う。 ・指針③について、「将来を豊かにする機会をつくります」の言葉が引っかかる。「将来を豊かに生き抜く力につなげます」などに変えてはどうか。 ・基本理念「もっと、こどもまんなか」は、シンプルで分かりやすい。 ・教育大綱の名称は、馴染みのない英語表記だが、武雄が頑張っている今の社会を生きていることが伝わる。 ・前回では「go」だったのがなぜ「move」に変わったのか。 ⇒企画政策課)「go」は行くという意味だが、ただ前に進むだけではなく、「move」は体全体を使った行動的な動きを見せるために改めた。 ・「move」という言葉が強く感じる。英語圏での意味で“前進する”のほかに、“(ネガティブなことから)乗り越えて次に進む”と訳してしまう。英語圏の人がそう捉えてしまうのは残念。また、「go」は人に対して使うが、「move」はモノに対して使うことが多い。「go」のほうが違和感ない。例えば、より前進する流れを表現するなら「going forward」
----	--

がベストと感じた。

⇒市長)「go forward」はひとつの方向に向かっていく意味がある。多様性を持たせてみんなで前進し行動するため、また、強いメッセージ性を持たせるために、「move forward」を提示したが、ネガティブな要素は取り除きたい。今一度、確認する。

- ・指針①について、「自分が当事者として何ができるのか」というメッセージが伝われば良い。
- ・指針②について、様々な悩みを抱える人を誰一人取り残さないという、武雄市の目指す方向性が分かりやすい。
- ・指針③について、「英語」にも力を入れるという文言が、英語表記の教育大綱にもつながる。
- ・基本理念「もっと、こどもまんなか」はぴったり。
- ・教育大綱の名称は、昔とは異なり、今は小学校中学年で英語に触れる機会があるので、「move」、「go」、「forward」などは聞き慣れた単語になっていくと思う。
- ・前回の教育大綱より分かりやすくなり、幅が広がったと思う。
- ・指針①について、地域が関わる部分は教育だけではなく、子育て支援やヤングケアラーの問題など福祉分野にも広がっていくと思う。
- ・基本理念「もっと、こどもまんなか」は、もっとこどもが主人公になってほしいという思いがある。
- ・教育大綱について、「こどもたち同士が学び合い、こどもたちから大人が学びなど、こどもたちだけではなく」というところが良い。教育となると、“勉強やしつけを大人がこどもに教えるのが教育”と思われるが、大人もこどもから学ぶという姿勢が大事だと思う。
- ・教育大綱の名称『Move Forward』は、育友会の活動のタイトルにも活用できそう。また、育友会の役員や保護者にも浸透しやすく、こどもや大人、地域の方にもPRしやすい言葉であると思う。また、『未来はわたしたちが創る』という言葉も、こどもや保護者を絡めた良い言葉である。
- ・教育大綱の名称『Move Forward』については、これまでの『組む』の組織的なネットワークから、こどもたちを中心として、みんなで動き出そう、見守ろうという意味では「go」より「move」と思った。これまでの『組む』の組織的なネットワークを残しつつ、今度は企業含め地域を全面に出してもらえたのは有難い。これからはみんなでこどもが安心できる居場所を作り、こどもを見守って押し出して応援しようという思いのこもったシンプルで分かりやすい教育大綱だと思う。
- ・指針①は、「地域学習」という新たなキーワードが入り、みんなで学び合う言葉で相応しい。
- ・指針②は、安心できる居場所を行政、地域、企業、学校、家庭、親も一緒に考えることができると思う。
- ・指針③は、前回意見した“スポーツ”が入っていて、私自身も希望と夢を持てた。
- ・教育大綱の名称『Move Forward』については、“創る”、“協働”という言葉があって、『組む』から英語表記になったが武雄の今後の方向性を力強く感じた。
- ・これまでの『組む』から前進し、私たちひとりひとりが主体的に行動を起こそうという強いメッセージを感じた。また、各指針は、これまでの議論を踏まえ、重要な内容が分かりやすいコンパクトにまとめられていると感じた。
- ・指針①について、「地域みんなで、自分が当事者として何ができるのかを考え」という部分に「ひとりひとりのこどもたちを笑顔にするために、何ができるのかを考え」という目的を追加してはどうか。地域の方が、自分が当事者として何ができるのかを考えるときに、近所の身近なこどもたちひとりひとりの顔を思い浮かべ、その子たちを笑顔にするためには何をしたらいいかと考えると、具体的に何ができるのかを考えやすいと思う。

(教育長)

- ・武雄市が目指す教育の核心が、3つの指針に凝縮されていると思う。
- ・基本理念「もっと、こどもまんなか」は、国の施策を考慮してあり、短い言葉の中にこれから目指すべき方向が示されている。佐賀県教育委員会でも“ほめるから、はじめる”といったキャッチフレーズを作っている。今はこういった分かりやすい言葉が良い状況であるため、よくまとまっていると思う。

<市長の発言>

- ・前回ご意見いただいて、皆さまのご意見をできるだけ反映させるよう努めた。
- ・指針②「誰一人取り残さない」についてはネガティブな表現であるというご意見もいただいたが、指針③との違いが見えにくくなる点やあえて強いメッセージを示したいこともあり、このまま採用した。
- ・3つの指針は、アメリカの哲学者ジョン・デューイの教育の3原則(社会的な統合、教育の平等、子どもたちひとりひとりの良い面を伸ばす)に似ていて、バランスが取れていると思う。
- ・これまでの一斉授業から、子どもたちひとりひとりに応じた教育や協働的な学びといった教育の転換期に来ていると思う。先日学校の公開授業を拝見した際は、先生はファシリテーターとなり、子どもたちが自分たちの授業の目当てを作り、それに向けて個別的に学び、子どもたち同士で学び合っていた。教育と言えば、大人が支援するというイメージがあるが、子どもたちが誰かに教えることも学びになる。子どもたちも当事者の一人であり、支援される立場ではないと考える。支援する地域、企業など周りの大人だけではなく、子どもたち自身も未来を創る当事者であるという思いとともに、みんなで未来を創っていくきっかけにしたいと思った。それを教育大綱とするときに、行動指針を示したいと思った。
- ・教育大綱『Move Forward』はあえて英語表記にすることで、分からないなら分からないなりに調べることもつながらし、周囲にも広めていきやすい言葉であると考え。
- ・本日いただいたご意見も踏まえ、最終的な文言等について修正し、市長部局で決裁し、決定する。

3 閉会(進行:庭木企画部長)